





鉄筋の代わりに骨組みに竹を用いた落蓋型側溝用ふた

与を受けた高速炭酸化技術 子橋がある。新和設計(本  
により、木質バイオマス燃 社、山形県米沢市、社長  
焼灰をCO<sub>2</sub>の固定化と重 湯澤洋一郎氏)が、日本大  
金属の溶出を抑制した骨材 工学部土木工学科、坂内  
として有効活用を図るも セメント工業所などと竹筋  
の。木質バイオマス発電所 コンクリート協議会(事務  
と燃焼灰のリサイクル事業 局長 高橋明彦氏・新和設  
を推進するバイオマスパワ 計)を設立。竹を活用した  
1テックロジクス(BPT 環境に優しいコンクリート  
・本社、三重県松阪市小片 として、復活プロジェクト  
野町、代表 北角強氏)よ を進めている。

りカーボネルの供給を受け 近年、管理者不足による  
て、坂内セメント工業所が 放置竹林の増加が問題とな  
コンクリート骨材として利 っている。竹は成長が早く、  
用し、コンクリート製品の 他の樹木の成長阻害や、横  
製造を開始している。 方向に伸びる根の特性から  
【竹筋コンクリート復活プ 斜面崩壊を起こす恐れもあ  
ロジェクト】 る。同協議会ではSDGs  
竹筋コンクリートは、物 など社会貢献や環境問題へ  
資不足から昭和の初め頃ま の取り組みから竹に注目。  
で国内で普及していたとき 放置竹林の維持管理や脱炭  
れ、戦後になって衰退し 素に繋げたい考え。これま  
た。現存する構造物にア での実証で鉄筋コンクリー



土屋会長

日頃のご協力に対して、改 抑制効果のAF底版がある  
めてお礼を申し上げます。 が、公共事業費用の予算縮  
元日の能登半島地震では 小を受けて、防災・減災に  
甚大な被害が発生した。被 備えた営業活動は難しい面  
災された方々に対して心か もある。しかし道路上で1  
らご冥福をお祈りする。新 基でもマンホールの浮きあ

ことのできた。会員各社の いた。当工業会の製品に浮力  
は42回目の総会を迎える ルの浮き上がりが発生し  
ことができた。会員各社の ち約3割がユニホール製品  
日頃のご協力に対して、改 抑制効果のAF底版がある  
めてお礼を申し上げます。 が、公共事業費用の予算縮  
元日の能登半島地震では 小を受けて、防災・減災に  
甚大な被害が発生した。被 備えた営業活動は難しい面  
災された方々に対して心か もある。しかし道路上で1  
らご冥福をお祈りする。新 基でもマンホールの浮きあ

【ユニホールで日本をもっと安全に ユニホール工業会  
全国ユニホール工業会 報道によると、関連死を  
(会長 土屋明秀氏)は6 含めて288名の方がおじ  
月20日、主婦会館プラザエ くなりになり、東日本大震  
フ(東京都千代田区)で第 災、阪神淡路大震災に次ぐ  
42回定時総会を開催した。 大災害となった。日常を取  
総会では2023年度事業 り戻すにはまだ多くの時間  
報告・決算報告、24年度事 が必要で、1日でも早く平  
業計画案・事業予算案が原 穏な生活に戻るよう、ご祈  
案通り承認された。 念申し上げます。  
行が必要がある。

## 第42回総会を開催

いて、宇都宮大学雑草管理 ことに変わりはない。それ  
教育研究センターの西尾孝 だけに当工業会が果たす社  
佳准教授が「道路雑草にお 会的責務は非常に大きい。  
ける予防的管理の重要性」 ユニホールを提携し続ける  
津町の農地用水に施工を行 長が「道路の維持管理」につ  
について講演を行った。



伊藤会長

プレキャスト雨水地下貯 業報告・同決算報告、令和  
留施設工協会(会長 伊藤 6年度事業計画案・収支予  
伸泰氏)は6月28日、明治 算案が原案通り可決承認さ  
記念館(東京都港区)で令 れた。  
和6年度通常総会を開催し 令和5年度のプレキャスト  
た。総会では令和5年度事 ト遊水池の実績は14件、6  
168万9396m<sup>3</sup>となり  
施工件数は1000件を超  
えた。今年度は貯留施設の  
普及と拡張、設計施工の合  
理化、技術の向上を基本方  
針として活動を展開する。  
総会後の懇親会で伊藤会  
と雨水貯留の二つを合わせ  
た取り組みを30年も前から  
進めていたのはすばらしい  
を期待している」と述べた。

プレキャスト雨水地下貯 業報告・同決算報告、令和  
留施設工協会(会長 伊藤 6年度事業計画案・収支予  
伸泰氏)は6月28日、明治 算案が原案通り可決承認さ  
記念館(東京都港区)で令 れた。  
和6年度通常総会を開催し 令和5年度のプレキャスト  
た。総会では令和5年度事 ト遊水池の実績は14件、6  
168万9396m<sup>3</sup>となり  
施工件数は1000件を超  
えた。今年度は貯留施設の  
普及と拡張、設計施工の合  
理化、技術の向上を基本方  
針として活動を展開する。  
総会後の懇親会で伊藤会  
と雨水貯留の二つを合わせ  
た取り組みを30年も前から  
進めていたのはすばらしい  
を期待している」と述べた。

「当協会は30回の節目を迎 ことだと思ふ。官民が総力  
を挙げて防災減災国土強靱 化を成し遂げていきたいと  
思ふので、引き続き協力を お願したい」と述べた。  
日本下水道新技術機構の 泉谷信太郎氏は、「貴協会  
と平成6年の発足当時から、プレキャスト遊水池の  
普及に向けて共同研究を  
実施し、技術マニュアルを  
刊した。その後、耐震性や  
維持管理性に配慮した内容  
に改訂している。温暖化の  
影響で、今後は雨の降り方  
が益々強まると見られ、雨  
水貯留施設の重要性も高ま  
ると思う。中でもプレキャ  
スト式の貯留施設は上部が  
有効利用できるメリットが  
あり、槽内に入って掃除が  
できるなど維持管理性にも  
優れている。当機構もマニ  
ユアルの普及を通じて、プ  
レキャスト遊水池の拡販に  
協力したい」と述べた。  
建設業技術者センターの  
環境配慮が求められてお  
り、プレキャストの必要性  
が非常に高まっている。ま  
た気候変動を踏まえて、河  
谷口博昭顧問は「能登半島  
地震から半年が経過し、改  
めてインフラの計画的・先  
行的な整備の必要性を痛感  
している。温暖化で雨の降  
り方も激しくなっている。  
従前の計画を少しグレード  
アップして、然るべき備え  
をしていくことが肝要で、  
プレキャスト遊水池の拡販  
を期待している」と述べた。

## 昨年度6万3500m<sup>3</sup>

### 前年比2.4倍に増加

プレキャスト遊水池

プレキャスト雨水地下貯 業報告・同決算報告、令和  
留施設工協会(会長 伊藤 6年度事業計画案・収支予  
伸泰氏)は6月28日、明治 算案が原案通り可決承認さ  
記念館(東京都港区)で令 れた。  
和6年度通常総会を開催し 令和5年度のプレキャスト  
た。総会では令和5年度事 ト遊水池の実績は14件、6  
168万9396m<sup>3</sup>となり  
施工件数は1000件を超  
えた。今年度は貯留施設の  
普及と拡張、設計施工の合  
理化、技術の向上を基本方  
針として活動を展開する。  
総会後の懇親会で伊藤会  
と雨水貯留の二つを合わせ  
た取り組みを30年も前から  
進めていたのはすばらしい  
を期待している」と述べた。